

きずな

小牧市民病院の理念

- 1 安全で安心な病院
 - 2 最新医学による高次医療病院
 - 3 恕の心で患者さんに寄り添う病院
- ～医療を通じて安心で豊かな
地域の実現に貢献します～

発行者 / 小牧市常普請一丁目20番地 小牧市民病院 院長 谷口健次 TEL(0568)76-4131
<http://www.komakihp.gr.jp/>

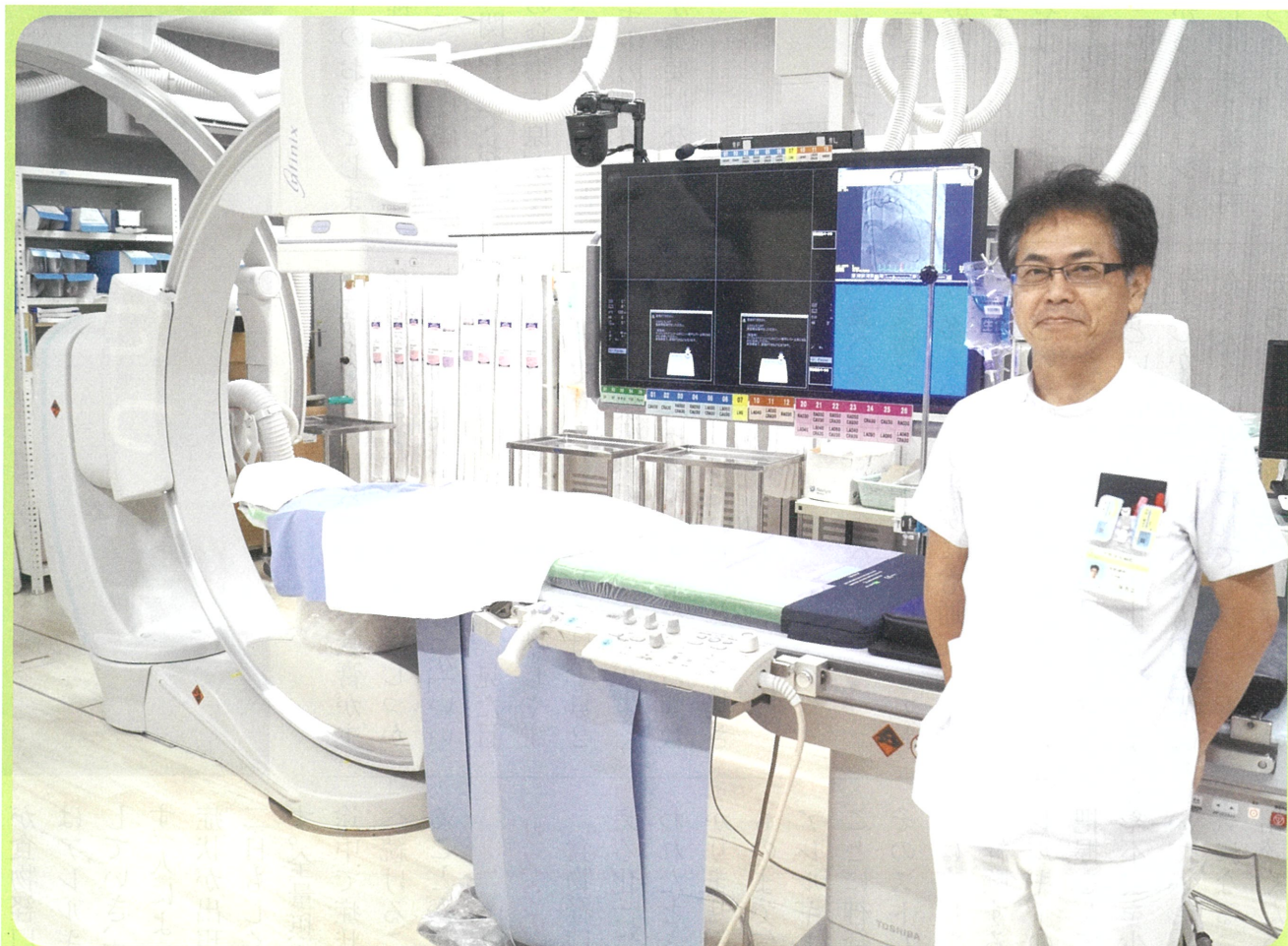


写真:最新の心臓カテーテル検査装置を導入しました



キミと一緒に、育ってきたい。
Komaki

ニュース	● 小児アレルギーについて	P2
特集	● 認知症ケアについて	P3
健康教室	● 尿管結石について	P4
各科だより	● 核医学(RI)検査について〔放射線科〕	P5
職場紹介	● 安全で安心な化学療法(抗がん剤治療)に向けて 〔外来化学療法室〕	P6
意見箱から	● 来院者の方からのご意見と回答	P7
	● 市民病院案内図 外来案内など	P8

小児アレルギーについて

今回は食物アレルギーのお話をします。食物アレルギーの管理で大事なことはスキンケアと食事管理です。皮膚炎と食物アレルギーは密接に関わっており、傷ついた皮膚から微量の食物抗原が侵入して食物アレルギーへ発展することがあります。食物アレルギーの治療の一環として皮膚炎の治療が重要になってきます。

・スキンケアについて

スキンケアの主な目的は2つで「バリア機能の補填」と「抗炎症」です。乳幼児期の皮膚は保水力が弱く、乾燥によって皮膚のバリア機能が低下します。「バリア機能の補填」として保湿剤やワセリンを入浴後に塗ることで乾燥を予防します。また痒みで皮膚を引っ掻くことで更にバリア機能が低下するため「かゆみのコントロール」も大事です。抗アレルギー薬を内服することも選択肢の一つです。

「抗炎症」にはステロイド軟膏が主体となります。ステロイドはしっかりと塗り、段々と減らすことが「いい皮膚」をキープするコツです。見た目や手触りが良くなっても再燃しやすいため皮膚炎がひどいときは1日2回、朝と入浴後に塗り、皮膚がよくなってきたらステロイドを塗る回数を徐々に減らしていくことが推奨されています。

・「食べない」から「食べる」治療へ

食物アレルギー患者は増加しています。多くの方が当院にも通院されています。以前は「疑わしきは食べない」という除去指導が主流でした。いまは「食べられるものは早期に食べる」という食事管理に変化しています。しかし、除去していたものを急に食べなさいと言われても難しいものがあります。そのために行われるの

が食物経口負荷試験です。食物経口負荷試験とはアレルギーが疑わしい食物を少量から摂取していき、症状が誘発されるか確かめる検査です。人によってはアナフィラキシーなどの強い症状が出現することもあるため当院では一泊二日もしくは日帰り入院で検査を行っています。全量摂取できれば除去解除となりますが、途中で症状が出たとしても摂取可能な量を食べ続けることで最終的に食べられるようになることが目標です。

・リスクの「見える化」

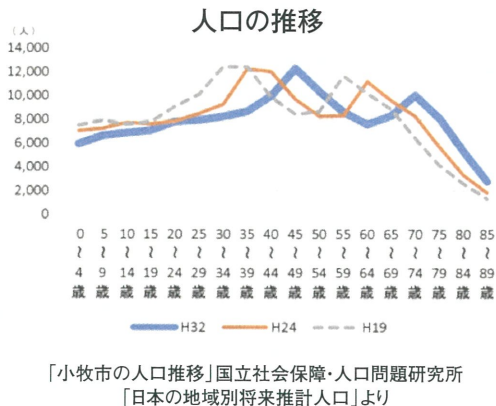
食物経口負荷試験のメリットは「リスクの見える化」にあると考えています。食物除去と言われたときにどこまで除去が必要なのかは分かりません。製造ラインや他の子の食べているものまで気にしなければいけないのかと食物アレルギーのお子様のご家族は食品に関することに神経をすり減らさなければなりません。そのストレスを軽減するためにも食物負荷試験は有用です。摂取可能な量や誘発される症状を経験することで食物アレルギーの状態を正しく把握をして不要な恐怖心や不安を少しでも取り除いていきたいと思います。何か気になることがあればご相談ください。



①はじめに

日本では世界一のスピードで急速に高齢化社会が進んでおります。小牧市でも全国推移と同様で世代別人口曲線は右方変位がみられます(図)。

小牧市民病院でもご高齢の入院患者数は増加しており、それに伴い入院する認知症患者や入院をきっかけに診断される認知症患者が増えております。その為、当院では2017年4月から認知症ケアチームが立ち上がり、脳神経外科医・精神科医・認知症認定看護師・薬剤師・社会福祉士による多職種チームで活動を行っております。



②認知症とは

認知症は病名ではなく、「記憶・判断力などの障害が起こり、普通の社会生活が営めなくなった状態」を指す言葉です。認知症を引き起こす病気の代表は「アルツハイマー型認知症」「脳血管性認知症」「レ

ビー小体型認知症」「前頭側頭型認知症(ピック病)」の4つです。症状は病気により様々ですし、一人の患者さんで見ても時間経過により刻々と変化していきます。その為認知症ケアを考えた時、認知症の症状や問題点に焦点をあててケアするよりも、その人を一人の人間として尊重する事がより重要となります。

③認知症ケアについて

認知症ケアは当初、身体介護や問題対処に重点を置いたケアが一般的でしたが、近年では認知症の方の声に耳を傾ける事、その方の人生の歩みを知り、その方らしく生きていくための支援をするという考え方に変化してきました。支援というのは「何でもしてあげる事」ではなく、相手の要望を傾聴し、感じ取り、相手の目線にたって考える事が始まりになります。認知症ケアの考え方の一例をあげます。認知症の方は判断力の低下が起る為、頼み事をしてもらっても失敗が多くなります。ここで、「失敗するのは分かっているから、何も頼まない」と考える事は介護者の視点からは合理的です。しかし手間はかかりますが、「失敗しない事を頼む、もしくは失敗しないようサポートする」と考える事が、これ以上判断力を低下させないためのアプローチとしてより正しいケアと言えます。

④認知症ケアチームについて

認知症になると環境変化に対し抵抗力が弱くなりますので、入院という大きな環境変化により認知症状が悪化する事が必発と言っているほど高い確立で起こります。認知症ケアチームは複数の専門的な視点で、患者さんの認知症状や環境変化に伴うストレスを軽減し、治療に集中できるようにお手伝いをする事を行っております。また、医療スタッフの認知症ケアに対する教育も担っており、病院として認知症の方に適切な医療が提供できるように取り組んでおります。

小牧市民病院は、臨床研修病院として研修医の教育、育成に積極的に取り組んでいます。

臨床研修理念

「恕の心」を持って、謙虚、感謝の念を忘れずに、プライマリ・ケアの診療が出来る医療人を育成します。

臨床研修の基本方針

- (1) 医療の本質の「仁」と「尽」を理解し、人格の涵养に努め、患者・家族中心の医療を実践します。
- (2) チーム医療の重要性を理解し、他者からの意見を真摯に受け入れた医療を実践します。
- (3) 常に最先端の医学的知識の習得を心掛け、最善の医療の提供に努めます。
- (4) 地域医療に参画し、全人的医療を実践します。

臨床研修に関するご意見を、小牧市民病院臨床研修センターにお寄せください。

まだまだ暑い日が続きますが、夏と言えば、私たち泌尿器科医にとっては結石の季節と言えます。今回は尿管結石についての話をします。

「尿」という文字が頭につく結石には、尿路結石、尿管結石、尿道結石があります。これらは違うものです。大きなくりで尿が流れる道にできる石を尿路結石といい、また結石は位置により名前が変わるので、尿管にあれば尿管結石、尿道にあれば尿道結石というわけです。

通常痛みを伴うのは尿管結石です。これは、尿の流れを塞いで腎臓の内圧が高まって痛みを起こします。ですから、結石の大きさや尿管のどこにあるかにかかわらず腎臓が腫れて腰が痛みますが、特殊な例では炎症がちょうど尿管近くを伴走する神経に及び痛みが睾丸に放散したり、尿管の下の方に結石があれば膀胱炎のような症状(何度もトイレに行く、排尿時にしみるような痛み)を起こすこともあります。

痛みと結石の大きさや医学的な深刻度は関係ありません。2〜3mmの小さな結石でも急に詰まれば強い痛みを起こしますし、それに細菌感染が加われば敗血症といった適切な処置をしなければ命に関わる状態に陥ることもあります。

一般には結石の痛みは一時的で、尿管が収縮して結石が完全に詰まったときには痛みがありますがしばらくすると尿管の収縮が緩んだり、腎臓からの尿の産生が止まって痛みは落ち着いてくるものです。痛みは場所と時間を選びませんので時間外の救急に来られることも多く、通常尿管の収縮を和らげる注射や坐薬で対処しますが、痛みがどうしても取れない場合や、あまりに圧が高まった結果、尿管が破れたり、尿の中の細菌が腎臓に逆流し腎盂腎炎を起こした場合などは尿の流れを確保するために結石の横を通す形でストローのような細い管(尿管ステント)を入れることもあります。結石が大きくなければ(一般には6mm以下)自然排尿に期待しますし、それが難しい場合は、後日、積極的に結石を摘出する治療を行います。

以前、結石治療の8割以上は体外から衝撃波を当てて砕く治療でしたが、最近では細いファイバースコープとレーザーで内視鏡的に砕くことが多くなりました。尿道から管を入れて結石を砕くので入院して手術室で下半身麻酔をかけて行う必要がありますが、直接結石をみながら破碎するので体外衝撃波より確実に、現在では結石治療の4割まで増加しています。

尿管結石は再発しやすく、一生付き合う必要があります。体質も食生活も関係がありますが、これからの季節では、体の水分が汗にとられて尿が濃くなるのが原因となりますので、積極的に水分を補充して尿を薄くする努力が重要です。



健康講座

糖尿病とともに

糖尿病の基礎知識について当院スタッフがわかりやすく説明します。糖尿病の方、ご家族の方、病気でなくても気になる方は、ぜひお気軽にご参加ください。

参加無料

- 開催日** 平成29年10月11日(水)
- 内容** ①糖尿病とは(糖尿病・内分泌内科医師)
②糖尿病と薬について(薬剤師)
③運動療法について(理学療法士)
- 時間** 午後2時から4時
- 場所** 小牧市民病院 8階講堂

*当院に通院されていない方もお気軽にご参加ください。(予約不要)

こんにちは。放射線科アイソトープ室です。前回の病院だより「ぎずな」No.39に続いて、アイソトープ検査(RI検査)の中でも骨の核医学検査についてお話ししたいと思います。

何がわかるのですか？

外傷などによる微小骨折、がんの骨転移など、X線検査ではわかりにくい様々な骨の状態を詳しく調べることができるといえます。

骨転移の治療前後で治療の効果をみたり、疲労骨折や骨粗鬆症による骨折を早期に発見したりするのに用いられています。

どうやって調べるのですか？

血流によって骨に運ばれ、骨の組織に集まる性質を持つ放射性医薬品を静脈から注射します。その薬には放射線を出すラジオアイソトープ(RI)という“しるし”がついています。骨の組織に取り込まれた薬から出る放射線をガンマカメラという特殊な装置で撮影します。

検査には半日程度かかりますが、アイソトープ検査室内に居る時間は注射時と撮影時の30分程度です。

検査までの流れ

〈検査前〉

・主治医(専門医)の診察を受けます。

症状に合わせて検査の計画を立てます。疑問や不安がありましたら、納得のいくまで確認しておきましょう。

妊娠中や授乳中の人は申し出てください。検査の予約をしてください。

・検査に使う薬は検査当日しか使えないため、検査予定に合わせて用意をします。直前のキャンセルは難しいため、確実にこられる日に予約してください。

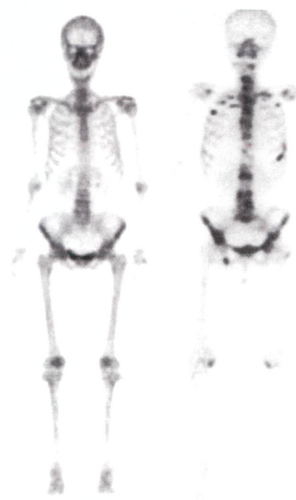
・注意事項、指示を確認しておきましょう。食事や内服薬の制限は基本的にありません。

〈検査当日〉

1. 検査室に入り準備します。

2. 薬を注射します。

検査に必要な放射性医薬品を静脈注射



正常例

異常例

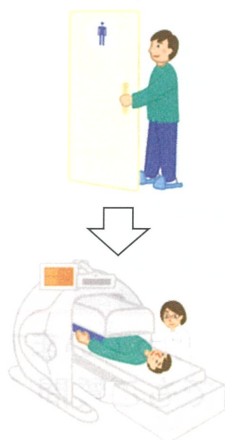
正常例の画像に比べて、背骨や肋骨等にまだら状により黒い箇所があります。ここが異常部位となっています。

します。注射後に撮影時刻等の説明をします。約3時間後の撮影になりますので一度退室します。撮影までは自由にお過ごし頂いて結構です。

3. 検査をします。

静脈注射してから約3時間後にアイソトープ検査室に戻ってきていただきます。排尿後、装置のベッドに仰向けに寝て両腕を下げた姿勢で検査します。(膀胱に尿が溜まっていると正確な診断ができない場合があるため、撮影前には排尿を済ませるよう指示されます。)体の前と背中側にカメラが近づきゆっくり頭側から足側に向かって移動しながら撮影をします。1回の撮影時間は約20分で終了します。検査中は体を動かさなくてください。苦痛はありませんが、気分が悪くなったりした時は我慢せずに申し出てください。

排尿後
撮影します。



〈検査後〉

・いつも通りの生活をしてください。

・お風呂、食事、薬の制限はありません。

・後日担当医から説明があります。

・他の検査結果と併せて診断をおこないます。



安全で安心な 化学療法(抗がん剤治療)に向けて

[外来化学療法室]

職場紹介

がんの三大治療法は、手術療法・放射線療法そして抗がん剤を用いる化学療法です。その中で化学療法は、医学の進歩により治療成績も向上しています。最近では免疫療法も保険承認され、新たな治療も確立されています。さらに副作用の少ない薬剤の開発や副作用の症状を軽減する薬剤の使用などにより、自宅での生活を送しながら、通院により外来で化学療法を受けていただけるようになりました。小牧市民病院では、安全で安心な化学療法を受けていただけるようH15年4月より外来化学療法室を開設し、H19年11月より15床に増床し、抗がん剤や分子標的薬剤及びホルモン剤の投与を行っています。

現在は化学療法センター長の医師を中心に看護師7名と事務2名が所属しています。各診療科の医師と定期的にカンファレンスを開催し、情報共有を行っております。また、薬剤毎の勉強会により、知識の再確認や最新情報の収集を行うことや、抗がん剤の調製においては、化学療法の知識や経験のある薬剤師が専用の部屋で投与内容や量を確認し準備するなど、より安全で安心な治療を受けていただけるように努めています。

抗がん剤は薬剤師が、
専用の部屋の
キャビネット内で
調製をしています。



リクライニング
チェアで
足も伸ばして
リラックス

パンフレットやサンプル品も
置いています！

Q: だれでも外来化学療法室で治療が受けられるのですか？

A: 外来での管理が可能な抗がん剤注射であれば、全てのがん患者さんが対象となります。
また分子標的薬剤を使用するリウマチや消化器の患者さんも対象となります。

Q: どんなケアが受けられるのですか？

A: 点滴治療の他、治療中の副作用などの相談もお受けしています。
例えば、脱毛や口内炎、食欲不振などケアの方法や対処方法について一緒に考えます。
治療中の患者さんに対する御家族の不安などもお聞きしています。
内容により、薬剤師や栄養士などと直接お話しもできます。



外来化学療法室では、初回に看護師が面談を行っています。
通院しながらの治療にご不安などありましたら、何でもご質問ください。

当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。そこで、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

《いただいたご意見》

いつも診察が遅く、処方せんをもらってFAXをお願いしていましたが、最近、午後5時前には閉まっています。午後5時まではあけておいてほしいです。

お薬の数が多いので、薬局でもらうのにすごく時間がかかります。

ぜひ午後5時までFAXの送付をしていただくようお願いします。

《ご意見に対するお答え》

[薬 局]

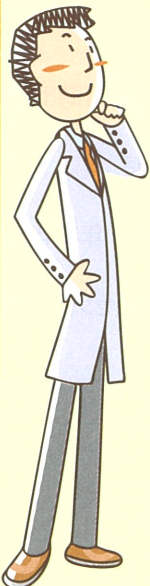
この度は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

院外処方せんを調剤薬局に送信するためのFAXコーナーは、小牧市薬剤師会が運営し、当院は場所の提供をしております。平成27年に、小牧市薬剤師会より人件費の問題もあり、FAXコーナーの利用者が少なくなる午後3時以降の窓口を中止したいとの申し入れがあり、同年10月より窓口時間を午前8時30分より午後3時までといたしました。

しかし、窓口時間が短くなった頃より、窓口時間を午後5時までにしてほしいとのご意見が多数寄せられるようになりました。そのため、小牧市薬剤師会へ患者さんからのご意見をお伝えし、窓口時間の延長について協議を重ねてまいりました。

その結果、薬剤師会から窓口時間を午前8時30分から午後5時までとさせていただくと申し出があり、本年1月4日から午後5時まで時間を延長することとなりましたので、ご利用ください。

小牧市民病院の基本方針



1. 地域社会への貢献

尾張北部医療圏の高度急性期医療を担う中核病院として、高次医療、救急医療を提供し、社会的な要請や地域社会のニーズに応える病院事業を推進します。

2. 患者本位の医療の実践

「怒」の心をもって患者さんの立場に立った思いやりのある医療を行います。

3. 医療の質の向上

診療機能を高めるとともに、安全で質の高い医療を提供します。

4. チーム医療の強化

すべての職員は自らの専門性を生かしつつ互いに協力し合うことで、患者さんを中心としたチーム医療および組織横断的活動を推進します。

5. 地域医療連携の推進

地域完結型医療のために、地域の医療水準の向上を目指して、周辺の医療機関との連携を推進します。

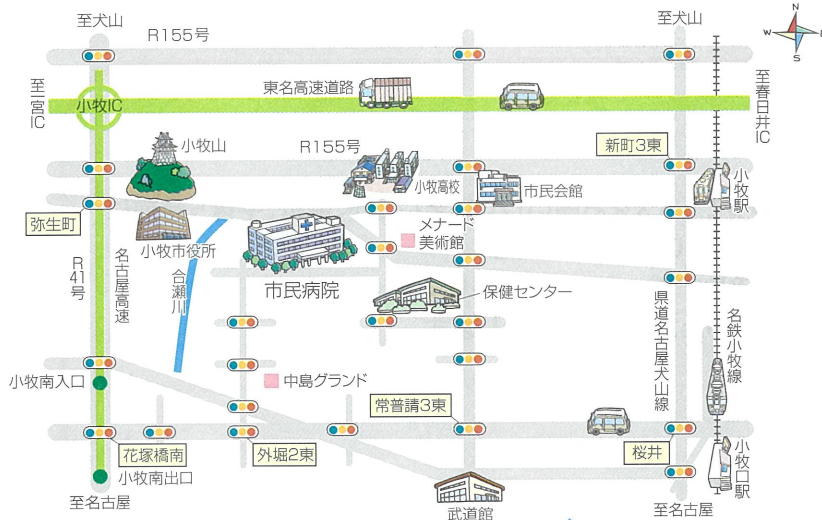
6. 医療人の育成

働きがいのある病院づくりに努め、地域医療を支える優れた医療人を育成します。

7. 健全な経営

医療情勢の変化に対応し、安定した経営基盤の確立を目指します。

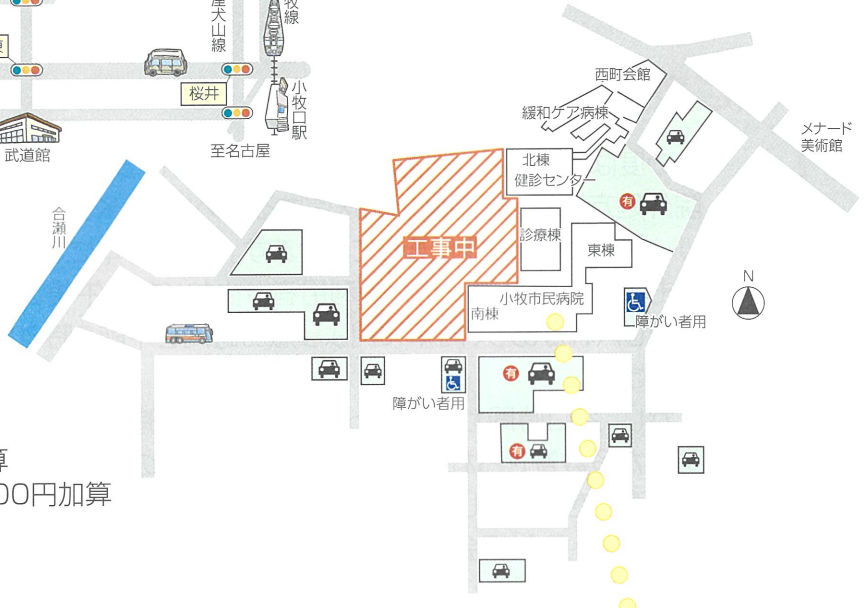
市民病院案内図



- 名鉄小牧駅から徒歩15分
- 名鉄小牧駅から岩倉駅行きバスで小牧市民病院前または小牧市民病院北下車3分
- 東名・名神高速道路小牧インターから車で5分
- 名古屋高速11号小牧線小牧南出口から車で5分

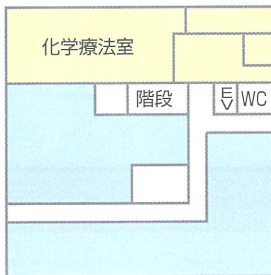
■ 有料駐車場料金

8時間までは100円
 8時間を超えると1,000円加算
 以降8時間を超えるごとに1,000円加算

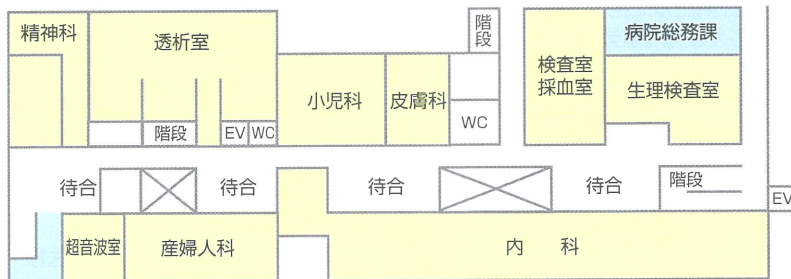


外来案内

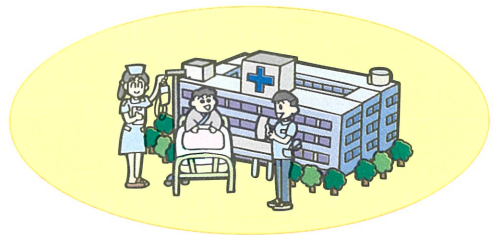
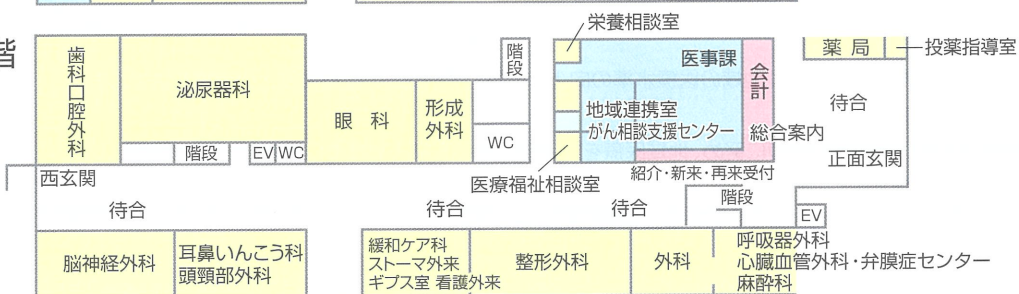
3階



2階



1階



〈診療受付時間〉

午前8時30分～午前11時30分

〈診療時間〉

午前9時～午後5時

〈休診日〉

土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

※急患の方は、救命救急センターで随時診療